3.11つなぐっぺっし

私達のつなぐ

私達は主に神奈川県の逗子を拠点に、日々身近に存在している災害に対しての風化防止活動、逗子市からの支援として災害が起こった際の緊急募金などを行っています。長期休みなどまとまって活動できるときには実際に被災地に行き支援活動や自分たち自身の中の風化防止活動のために活動をしています。神奈川県を中心に集まった中高生を中心に定期的な定例会やペシゼミと呼ばれる自分たちで身の回りに潜む災害についての探究活動を行っています。外部の活動ではイベントに出店して射的や屋台での収益を被災地への募金に当てたりしています。

活動のモットー

私達の志、つまり活動のモットーは「見て、伝えて、つなげる」ことです。今の中学生、小学生は2011年3月11日の「東日本大震災を経験していない、記憶に残っていない」人たちが大半です。しかし、2024年1月1日に起こった能登半島地震は記憶に残っている人が大半です。「記憶が新しいうちに次につなげ忘れない。」このことが何より重要だと考えています。そうした活動を私達学生が中心になって行うことでより多くのひとにこの活動を知ってもらい忘れないでもらう。この活動を私達は何より重要視していてかつ私達のモットーとして活動を行っています。

被災地での活動

8月には被災した能登の状況をより身近で感じられるように実際に四川けんの能登半島に学生たちで訪れました。能登の仮設住宅に一時的に避難している方々とゲームや合唱といったレクを行いました。夏場は暑く、外から出ることが億劫になっている人が沢山いらっしゃいました。私達にできることで誰かの心の些細になることがてきたならば幸いです。研修に行った学生の感想 ▶ 能登に行ったときは震災から半年以上たっていたが、散らばった家屋の破片が集めてあったり、割れた窓にブルーシートを被せてあったりというような応急処置だということが分かった。下に載せたように一階や二階部分が崩れて屋根のみが残っているような家屋もあった。これは能登の家の古い造りにも原因があるため、地震が起きて避難する際に造りの弱い建物にはよく注意することが必要だと理解した。震災から半年が経った能登は潰れたり傾いたりした家屋がまばらにあったり、地面から飛び出したマンホールもあったりと依然として震災当時を想わせるような町の様子であった。

一列になり制限の下、タオルを隣の人に渡していくゲームは白熱して途中からみんな真剣にそして笑顔になるものでした。レクが終わったあとには「楽しかった」というような感謝をいただいて能登の人たちと心を通わせられた気がした。現地の人の交流の場を作れたようで嬉しかった。

最後に、この活動を通して復興の難しさを知るとともに、交流して心から笑顔になることの大事さを知れた。

地元での活動

っっっ私たちは、令和6年能登半島地震の被災地支援を目的に、わずか1週間で130万円もの募金を集めました。通学路での街頭募金、SNSを活用した広報、地域団体との連携を通じて、たくさんの人の思いを「支援のカタチ」に変えることができました。

この募金活動は「見て」行動を起こした第一歩でした。ニュースやSNSで被災地の現状を知り、「自分たちにできることは何か」を考え、自ら企画・運営を行いました。大人に任せるのではなく、私たちが前に立ち、声を出し、募金箱を持つことで、「感じたこと」を「行動」に変えました。

さらに、月に一度の自主ゼミ「ペシゼミ」では、身近に潜む災害リスクについて探究を深めています。防災の視点で街を歩き、行政の方や災害支援団体から話を聞くことで、「防災＝特別なこと」ではなく、「日常の中でできること」として捉えることを大切にしています。ペシゼミで得た知識や視点は、学校や地域での防災啓発活動へとつながっています。

私たちの活動の根底には、「見て、感じて、つなげる」という想いがあります。被災地と日常、支援者と被災者、知識と行動。それらを“つなげる”ことで、持続的な支援と学びの循環が生まれると信じています。

私たちは、これからも「感じる心」と「動く力」で、防災と支援を日常に根づかせていきます。

キャッチコピー

僕は人が様々なしがらみから逃れてその人らしく子どものように直感的に生きられたら、もしくは、その瞬間が生活の中に僅かでもありさえすれば人生は楽しくなっていくと考えています。僕はつなぐっぺしの活動を通して上に書いたような経験を自分にも他人にも与えていけたら嬉しく思います。

被災地の映像を「見る」だけでは終われない――そう感じた私たちは、1週間で130万円の募金を集めました。自ら声を上げ、行動した結果、多くの人の想いを支援につなげることができました。現在は月に一度「ペシゼミ」を開催し、身近な災害リスクについて学びを深めています。「見て」「感じて」「つなげる」を合言葉に、人と人、地域と被災地を結ぶ活動を続けています。私たちは、若い世代の力で未来を変えていきます。

団体紹介

「3.11つなぐっぺし」は、東日本大震災の風化防止と被災地支援、そして地域の防災力向上を目指して活動する中高生ボランティア団体です。2013年に岩手県へのボランティア訪問をきっかけに結成され、毎月の募金活動や防災イベント、現地での支援活動を行っています。音楽イベント「ペシロック」や月1回の「ペシゼミ」など、若者ならではの視点で“見て かんじて つなげる”を実践しています。